

令和4年10月17日

【巻頭のご挨拶】

(理事長 野々村好三)

運動会や文化祭など学校行事が充実し、学業の面でも重要な秋を迎えています。

9月のオンラインセミナーでは、教科書だけでなく、副教材の重要性についても、報告者のお二人から触れられましたが、副教材については点訳情報が共有できていない、点訳者が足りていないなどの課題もあります。

そこで教科書点訳連絡会では、今後、教科書に留まらず、副教材の情報共有にも取り組んでいければと考えております。まずは、「副教材の依頼を受けたが自施設・団体では受けきれない」などの情報がございましたら、メーリングリストをご活用いただき、発信いただけましたら幸いです。

どうぞ宜しくお願いいたします。

【令和4年度第2回（第34回）教科書点訳連絡会セミナーのお知らせ】

見る図と触る図の大きな違い

～点字教科書における触図作成の基礎知識～

日 時：2022年12月3日（土）10：00～11：45

Zoom オンライン（ライブ）

講 師：加藤俊和氏

（理科点字表記解説2019年版「図表について」担当）

主 催：特定非営利活動法人

全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

今回の教点連セミナーは、様々な教科の点字教科書製作で必要となる触図の基礎知識がテーマです。理数系教科だけでなく、社会や技術・家庭・保健体育など幅広い科目で触図が必要となりますが、どのように向き合えばよいでしょうか。いうまでもなく、すべての地図やイラストを触図にしても学習効果が上がるわけではありません。目で見てわかりやすい図と、指で触れてわかりやすい図の違いを知り、その単元の目標を踏まえたうえで、図を作ること、そして必要に応じて説明を添えることが求められます。

セミナー開催に先立ち、点字でプリントアウトした図を参加者の皆様に送付予定です。触図作成未経験の方をはじめ、永年点字教科書を制作してこられたベテランの皆様にもご参加いただき、今一度「さわって分かりやすい図」についてご一緒に考える機会にできればと思っております。皆様からの事前質問を歓迎いたします。ぜひ多くの方のご参加をお願いいたします。

プログラム

- 10：00 開会挨拶
- 10：10 加藤俊和氏 講演
- 11：10 質疑応答と意見交換
- 11：40 諸連絡など
- 11：45 閉会

対象：本会会員、点字教科書・教材製作に携わっておられる方・ご関心をお持ちの方
定員：先着 80 名（オンライン参加）

参加費：会員…無料、非会員…1,000 円（資料代等）

お申し込み・問い合わせ：11 月 10 日（木）までに、氏名（フリガナ）、所属、メールアドレス、資料送付先を下記宛てにお送りください。

info@kyotenren.org（本会代表アドレス：担当 山岸）

お申し込みから概ね 3 日以内に返信メールをお送りいたします。

（事前質問も、11 月 10 日までにお寄せください。）

【令和4年度 第1回（第33回）セミナー報告】

9月17日（土）10時から11時半まで、オンラインによるセミナーを開催しました。今回は「点字教科書・教材使用者の体験に学ぶ」をテーマにお二人の発表者をお招きし、これまでの経験を聴かせていただきました。参加者は51人の幅広い方面の方が参加され、熱心に耳を傾けました。

前半は、今春、京都大学文学部を卒業し、社会人として活躍中の花房朋樹（はなふさともき）さんのお話でした。小学校から高校まで地域の学校で学んだ花房さんは、現在は全盲ですが、幼少期のころは弱視でした。そのため、小学校のころは単眼鏡を使って読み書きしたり、拡大教科書を使用しながら学びました。それと同時に、定期的に盲学校に通級し、単眼鏡や拡大読書器の使い方、歩行訓練などの指導を受けていました。小学校高学年ころ、徐々に文字を読むスピードが遅くなり、盲学校で点字に切り替えることを提案され、点字を読む練習を始めました。

中学で点字教科書を使用するようになりますが、急にすらすら点字を読めるようになるわけではなく、辛い日々が続きました。思春期という時期も相まって、すらすら読み上げられない音読の時間が嫌いだったそうです。一方、両親に問題集を読み上げてもらいICレコーダーに録音してもらったり、スクールヘルパーに試験問題を読み上げてもらい口答で受験するなど工夫を重ねていました。そうして、中学3年のころから試験や副読本なども点訳してもらうようになりました。

高校入試を点字で受験し、見事合格。点字を読むスピードも上がってきて、手ごたえを感じていました。また、教科書や教材は学校がコーディネイトをしてボランティア団体に依頼し、準備をしてくれていたため、学習環境も充実していました。学校生活でも部活や文化祭に積極的に打ち込むことができ、3年間を満喫できたとお話されていました。

花房さんは、今振り返ると、点字教材がしっかり整っていたからこそ、勉強も学校生活も充実させることができた。学校の協力体制だけでなく、支援してくださったボランティアの方々にも深く感謝している、と何度も口にされていました。

最後に、中学・高校時代、点字で学習し感じたことについてお話してくださいました。

・テキストの分冊が細かい（ページ数が少ない）と、かえって扱いにくいことがあるので、程よい厚みにしてほしい。

・表紙の書き方では、一番ほしい情報（タイトルなど）を先に書いてほしい。

・個人によってニーズが違うと思うが、注は必要最小限に留めてもらえると扱いやすいと思う。一番重要な内容はどこか教員がピックアップしてくれるとありがたい。

・テキストデータを高校で活用していたが、主に点字ディスプレイで点字に変換し読んでいた。PCでの入試受験は認められていないので、点字による受験対策をしておくのが良いと思う。テキストデータは社会に出たときに向けて活用していくのが良い。

・英語点字は盲学校で学び、本を借りて覚えていった。最初はどれくらい内容を理解

できていたかわからないが、わからないなりに点字に触れているうちに読めるようになったと思う。1冊読み切ったときの達成感が忘れられない。

後半は、現在、早稲田大学理工学部4年生で、物理学を専攻されている天川真琴（あまかわ まこと）さんのお話でした。

天川さんは小学校2年生の時に全盲になり、地域の学校に通いながら、盲学校に通級し点字を学びました。小学校5年生で盲学校に転校、中学まで盲学校で学びますが、高校は理系を専攻したかったため、地域の進学校に進学しました。

高校では、大学入試の過去問など個人的に読みたいものは個人的に点訳依頼していましたが、学校教材については学校からボランティアグループに依頼してくれていました。校内で配られるプリントや提出資料はコーディネイターに点訳・墨字訳してもらい、学校との橋渡しをしてもらっていました。

理系クラスでしたので、図はなくてはならない教材の一つでした。雨温図、光路を表した物理の図、有機化学のベンゼン環の形の図など数々の点図を点訳していただきました。また、地形図などどうしても点図にできないものは、そのまま立体コピーしてもらい、教員や保護者に説明してもらって理解したこともありました。ただ、見取り図は原本のまま点訳されていると理解できませんでした。

地図については地図の説明をノートにまとめたり、シンプルな点字地図帳に授業で学んだことを自分で書き込んだりしていました。英語点字や楽譜は盲学校で学び、英語の本を一覧表と照らし合わせながら読みました。数学記号は授業を聴き点訳物を読みながら覚えめました。同じように大学ではドイツ語を履修し、点字表記も一覧表を見て覚えめました。

最後に、天川さんにも点字教材についてお聞きしました。

- ・穴埋めプリントが使いづらかった。特に空欄に番号がふられていないと、全て点字ではノートに書かないといけないので煩雑だった。

- ・点字のデータだと嵩張らず便利だと思う。ただ、図のように紙にプリントアウトして読まないといけないものもある。

- ・高校の時から文字のみの情報はテキストデータを使用しており、教材だけでなく、読書感想文など提出物もテキストデータを使っていた。ただ、テキストデータで数式を読むことは困難なため、テフという形式の電子データを使っていたが、高校段階でこのデータを使うのは負担が大きいと思う。

お二人のお話を聞き、特に高校時代は、数多くの教材プリントや参考書も必要である中、点字資料に軸足を置きつつ、合わせ技でテキストデータもうまく使用するなど工夫されていた様子が伝わってきました。とはいえ、やはり学びには点字が欠かせない文字であったことは言うまでもないようです。プリントアウトした紙の資料や電子データなど形式は違っても、語彙や知識を身に着けるために、学齢期の視覚障害の児童生徒にとって点字資料は重要であることを再認識できました。そして、ボランティアの皆さんお

一人お一人のご協力により1冊の本がとどけられ、児童生徒たちの学習環境や学校生活を豊かにしているというお話も印象深く心に残りました。

【令和4年度 第3回理事会報告】

日 時：2022年7月23日（土）10：00～12：00

場 所：オンライン

参加者：池村、奥野、加藤、小宮山、鈴、長岡、野々村、藤下、三上、山本

議 題：

1. 教点連ニュース令和4年度第2号発行の報告
2. 会員名簿の確認
3. 第1回オンラインセミナーの内容確認と報告
4. 第2回目のセミナーについて
5. 今後のセミナーのテーマについて意見交換をおこなった。
6. 文科省との折衝について
7. ホームページ移行について

【令和4年度 第4回理事会報告】

日 時：2022年9月17日（土）13：00～16：00

場 所：オンライン

参加者：池村、奥野、加藤、小宮山、鈴、長岡、野々村、藤下、牟田口

議 題

1. 今年度第1回セミナーの振り返り
2. 第2回オンラインセミナーについて
(詳細は、セミナー案内を参照してください。)
3. 教点連ニュース第3号発行について
4. 活動に関する会員向けアンケートの実施と集約について
5. 点字考案200年記念実行委員会第2回記念イベントについて
6. 「教科書点訳の手引き」の進捗状況の報告
7. 第3回セミナーについて
(2023年2月に実施する予定。)

※次回の理事会は、11月5日（土）10：00から。オンラインにて。

以上。

発行日：令和4年10月17日

発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：野々村好三

ニュース発送元：（社福）名古屋ライトハウス法人本部

〒466-0855

名古屋市昭和区川名本町1丁目2番地

本会E-mail：info@kyotenren.org

振込口座番号：0180-7-262151

口座名義：全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会